

主な委員指摘事項の反映状況

項	開催回	指摘事項	対応状況
1	第1回	大規模災害時には通信の途絶が発生し得る。特定の地域等の情報が来ない場合、そもそも通信が途絶している可能性もあると思うので、収集した情報だけでなく、情報が収集できない地域を特定することについても合わせて取り組むべき	第2章(1)「消防指令システムを取り巻く現状を踏まえた課題整理」においてご指摘の点を記載しました。
		AIによる言語解析等、AIの活用については、学習に用いるデータの収集方法等についても議論すべき	第2章(1)「消防指令システムを取り巻く現状を踏まえた課題整理」においてご指摘の点を記載しました。
	一般的に外部システムに接続すると、その便利な外部システムに依存する傾向がある。何らかの要因により外部システムが使用できなくなった場合、どれだけ不便になるのかを把握することや、その場合の対応方法を確認すべき	第5章において、情報セキュリティの一部としてBCP等についても記載しました。	
	消防指令センターの機能停止を避けるためにも、近隣消防本部への協力連携等、分散配置で指令業務を継続する方策などを検討すべき	第2章(1)「消防指令システムを取り巻く現状を踏まえた課題整理」においてご指摘の点を記載しました。	
	基本機能を示し、特定の地域に必要な機能があれば追加していくとすべき	ご指摘の方向で第3章の検討を進めました。	
2	第2回	データの移行をスムーズに行えるよう検討すべき。特に地図はベンダーが変わった時に、次の指令会でそのまま使うことが出来れば、これまで積み上げたデータが活用できるので、優先的に取り組むべき	第6章(2)「クラウド活用に関する検討」、(3)「データベースに関する検討」、(6)「総合検討」においてご意見を踏まえて記載しました。
		業務の標準的な業務フローの作成だけでなく、消防職員が行う業務のうちどこをシステム化するのかという観点で検討すべき	第3章の検討のうち、業務とシステム機能を関連づける作業において、ご指摘の点を考慮して進めました。
		セキュリティポリシーの雛形のようなものを作るといい。	第5章「今後の予定」においてご指摘の点を記載しました。
		縮退運転について気になっており、システム障害や大規模災害時にシステムが使えなくなるような状態が発生した時に、残された機能をどのように使っていくか検討が必要。システムが使えなくなった場合も絶対に残しておくべき機能を洗い出し、もしそれが使えなかった場合に代替手段があるのか、昔ながらの音声のみの指令システムに戻しても運用を継続できるのか、というところまで検討をすべきだと思う。	第5章において、情報セキュリティの一部としてBCP等についても記載しました。
3	第3回	通報者と円滑にやり取りするための方法や、緊急通報として受け入れられる最低限の条件など、運用の観点からも検討すべき。	第4章(2)「緊急通報に係るデータ通信」において、「緊急通報手段・サービスの運用面での条件」について記載しました。
		セキュリティ侵害があった場合に、どのように可用性を担保するかについても検討していただきたい。例えば、消防指令システムの一部にマルウェアが侵入したとしても、消防指令システム等を停止するわけにはいかず、継続して一定の可用性を担保することが必要。	第5章において、情報セキュリティの一部としてBCP等についても記載しました。
		1つのシステムだけでなく、消防庁全体のシステムを対象とした検討内容であると思うので、そうであればセキュリティに関する検討には相応の検討期間が必要になるのではないかと	第5章「今後の予定」においてご指摘の点を記載しました。
4	第4回	一般化・抽象化したものよりも、どのような通信手段であれば可能か等の具体的な検討を行うべき	第4章(2)「緊急通報に係るデータ通信」の試作デモンストラレーションにおいて、具体的な緊急通報のイメージを提示しました。今後、具体化に向けた検討を進めていく予定です。
		外国語の通報があった場合に、音声でうまく聞き取れなかった場合に、例えばテキストのやり取りや映像の送信等によってコミュニケーションを図るなど、上手くつないでいく仕組みが必要になるのではないかと	第4章(2)「緊急通報に係るデータ通信」の試作デモンストラレーションにおいて、チャットの活用についても検証しました。
5	第5回	IP無線やPS-LTEの接続を維持する方法、または維持できない場合の対応についてもあわせて検討すべき	現時点では検討が間に合っていないため、引き続き検討いたします。
		将来的に目指していくセキュリティの在り方を検討する上では、現状把握のための調査と並行して消防以外の分野へのヒアリングや新技術の検討等も実施すべき	第5章(2)「検討状況」において、他分野の検討結果や文書を参照しました。
6	第6回	タブレットなどの汎用の端末機器を利用する場合は、盗難や廃棄端末の流通、また、悪意ある第三者による通信系への侵入等の可能性があるため、それらをどのように防いでいくかについても検討すべき	第5章(2)「検討状況」において、MDM機能の利用について記載しました。
		大規模災害の場合には警察や防衛、自治体等の外部システムと連携することが想定されるが、その際にはどのように連携するのか、どのようにセキュリティを担保するのか等についても、関係省庁と将来的に検討すべき	第4章(4)「その他の検討」において、ご指摘の点を記載しました。
7	第7回	データベースの中間標準レイアウト等を策定するのであれば、標準パッケージが最初からそれらに対応し、追加料金を払うことなく利用できるようにし、消防システムにおいて同様のオプション扱いとならないように留意すべき	第6章(3)「データベースに関する検討」において、自治体システムの最新動向を踏まえて「データ要件」を策定する方向で記載しました。
		デジタル庁が住民情報系の17の業務システムについて標準仕様書を策定することに伴い、データ連携方式である中間標準レイアウトと地域情報プラットフォームについても更新版を作成しているため、これらの検討もフォローし、消防指令システムの検討に取り込める部分は取り込むべき	第6章(3)「データベースに関する検討」において、自治体システムの最新動向を踏まえて「データ要件」を策定する方向で記載しました。
8	第8回	クラウドという言葉は解釈の幅が広く、パブリッククラウドやプライベートクラウド、コミュニティクラウド等、様々な方式のものが含まれ、それぞれメリット等も異なっている。検討にあたってはこれらの違いも含め整理し記載すべき	第6章(2)「クラウド活用に関する検討」において、ご指摘の点を記載しました。
		自治体では情報化部門を中心に、セキュリティポリシーガイドラインで示されている三層の対策を全庁的に実施している。そのため、各団体の一部門である消防本部が独自の方式を採用することは、予算面から考えても困難ではないかと	第5章(1)「検討方針」にご指摘の点を記載しました。
9	第9回	このクラウドがパブリッククラウドとプライベートクラウドのいずれを指しているのか不明確と感じる。メリットとしてパブリッククラウドらしい部分を謳っても、セキュリティの観点でパブリッククラウドを使えないといったことも考えられる。もう少し、どのようなクラウドを想定しているのか整理すべき	第6章(2)「クラウド活用に関する検討」において、ご指摘の点を記載しました。
		クラウド化検討を進めるにあたり競争環境とコストの観点も含めるべき	第6章(2)「クラウド活用に関する検討」において、ご指摘の点を記載しました。
10	第10回	消防に閉じた話ではないと思うが、地図は防災・減災のための重要なインフラであるので、警察庁、防衛省といった他の関係機関との情報連携のあり方なども視野に入れて検討すべき	第4章(4)「その他の検討」において、ご指摘の点を記載しました。